

あまねく

amaneku

2021 vol.11



同志社大学 スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室

「あまねく」第11号発刊によせて

スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室長
阪田 真己子



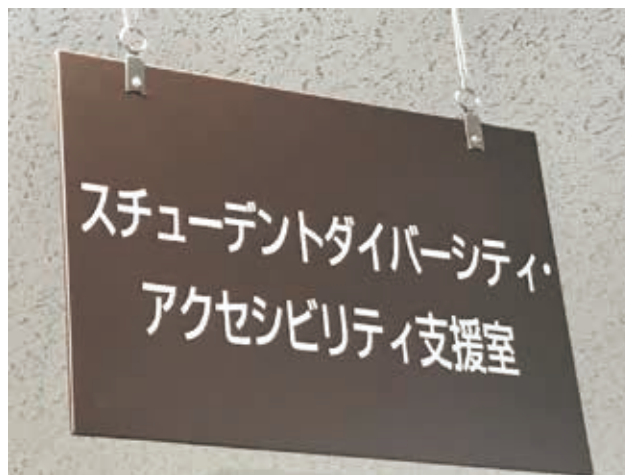
今から10年前の2011年、障がい学生支援室の広報誌「あまねく」第1号が発行されました。誌名となっている「あまねく」とは「もれなくすべてにわたっているさま」をあらわす言葉です。「もれなくすべての学生に学びの機会をわたらせること」を目指していた本学の願いを象徴するものといえます。

そして2016年、障害者差別解消法が施行され、学生の学ぶ権利が法によって保障されることとなりました。これにより「もれなくすべての学生に学びの機会をわたらせること」は、もはや「目指すもの」ではなく、組織として果たすべき「責任」へと変わりました。法律によって、すべての大学において障がい学生の学ぶ権利が保障されることとなった今、法整備のその先にある支援はどうあるべきかを見据えて次のステージに向かいたいと考えています。

さて、本学障がい学生支援制度発足20周年を迎えた2020年度、新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の事態は、組織の責任たる障がい学生支援の現場にも甚大な影響を及ぼしました。それまでの当室の役割は教員も受講生も大学の教室にいる状態を前提とする授業へのアクセシビリティを保障することでした。しかし、コロナによって、障がいの有無に関わらず、すべての学生が大学に、そして授業にアクセスすることが困難となってしまいました。この事態は、アクセシビリティの問題が単に障がい学生だけではなく、すべての学生、そして授業を提供する側の教員にも関わるものであるという気づきをもたらしてくれました。このことは、コロナによる多くの負の影響の中にあって、大学が果たすべき支援の本質を再考するきっかけとなりました。

現在、障がいの有無に限らず、人種、経済的地位、社会階級、民族、言語、宗教、性別、性的指向および能力といった「多様性 diversity」を尊重する機運が国内外で高まっています。同じ志を持って集まった多様な構成員があまねく個を発揮できるキャンパスを実現させるため、同志社大学障がい学生支援室は2021年4月より「スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室」として再スタートしました。

広報誌「あまねく」は、同志社大学における障がい学生支援の理念と実際の取り組みをご紹介するとともに、本学の障がい学生支援を支えてくれているサポートスタッフならびに利用学生の様子を多くの人に知っていただくためのものです。本誌が、全国の障がいのある学生・生徒の皆さんやその関係者の皆さん、ひいては障がいの有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を願うすべての方々への情報提供としてお役に立てば幸いです。



目 次

はじめに「あまねく」第11号発刊によせて	01
<大学内行事開催状況>	03
03 2020年度 入学式手話通訳／2020年度 入学式パソコン通訳／春学期始め顔合わせ会／障がい学生支援室 制度説明会／2020年度新入生歓迎会／春学期フォローアップ勉強会／春学期フォローアップ勉強会講師振り返り会／春学期中間懇談会／オープンキャンパス	
04 春学期 ランチタイム手話／秋学期 ランチタイム手話	
05 春学期末利用学生懇談会／春学期末全体懇談会	
06 秋学期顔合わせ会／秋学期フォローアップ勉強会	
07 秋学期中間懇談会／秋学期末全体懇談会／秋学期末利用学生懇談会	
08 第16回 Challenged キャンプ	
09 ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会／障がい学生対象「就職ガイダンス&相談会」／ハリス理化学館同志社ギャラリー第22回企画展「『支え合う志』をつないで－障がい学生支援制度発足20周年－」	
10 複合領域科目「支援する／される関係の中でバリアを考える－共に生きる社会をめざして－」	
<社会貢献事業>.....	11
11 聴覚障害学生支援実践事例コンテスト2020特別編－聴覚障害学生支援の思いを伝えるコンテスト－において、生命医科学部 浅野杏奈さんが「最優秀作品賞」を受賞	
<同志社大学障がい学生支援室について>.....	12

(表紙写真：同志社大学提供)

大学内行事開催状況

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度は入学式をはじめ様々な行事が中止となりました。春学期の授業は原則オンラインとなり、入構が制限され、学生たちは想像していたキャンパスライフとは全く別の1年を過ごすことになりました。

●2020年度 入学式手話通訳

予定日・場所：2020年4月1日（水）
京田辺校地中止

●2020年度 入学式パソコン通訳

予定日・場所：2020年4月1日（水）
京田辺校地中止

●春学期始め顔合わせ会

予定日・場所：2020年4月2日（木）
両校地中止

●障がい学生支援室 制度説明会

予定日・場所：2020年4月9日（木）、16日（木）、
23日（木）
京田辺校地 中止
2020年4月14日（火）、21日（火）、
28日（火）
今出川校地 中止

●2020年度新入生歓迎会

予定日・場所：2020年5月 両校地 中止

●春学期フォローアップ勉強会

予定期間：2020年4月～7月 両校地 中止

●春学期フォローアップ勉強会講師振り返り会

予定期間・場所：6～7月 両校地 中止

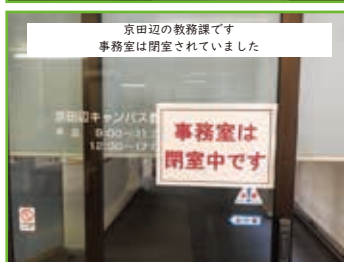
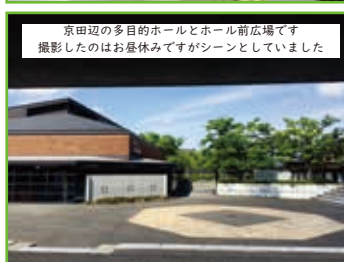
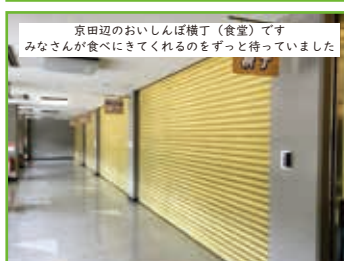
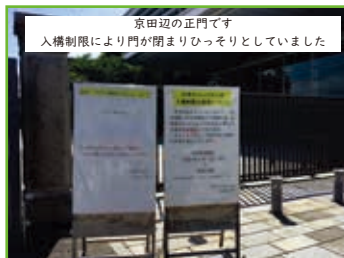
●春学期中間懇談会

予定日・場所：2020年6月 両校地 中止

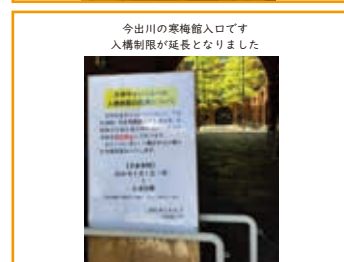
●オープンキャンパス

予定日・場所：2020年7月26日（日）
京田辺校地 中止
2020年8月2日（日）
今出川校地 中止

2020年度 春学期 京田辺校地の様子



2020年度 春学期 今出川校地の様子



●春学期 ランチタイム手話

開催期間・場所：7月毎週月曜日 Zoom開催
 参加者数：約10名/回
 講師協力：2名（コーディネーター）

●秋学期 ランチタイム手話

開催期間・場所：10月～1月 第2・第4水曜日
 今出川校地良心館301教室
 京田辺校地知真館1号館132教室
 またはZoom開催

参加者数：約8名/回
 講師協力：1名



ランチタイム手話 教職員も申し込みます！

手話は目で読む言葉です。みんなと一緒に楽しく会話してみませんか？興味のある方はどなたでも申し込みください。

7月13日(月)から「オンラインランチタイム手話」をはじめます！
 日時：7月13日(月)、7月20日(月)、7月27日(月)の12:30-13:00
 ※いずれか1日の参加でも申し込みできます。

参加ご希望の方は、下記「ランチタイム手話参加申込みフォーム」から申し込みをしてください。当日の開始30分前までに申請者に対して、ZoomのURLをお送りします。
 ※Zoomを使用できる環境が必要となります。参加ご希望の方はあらかじめPCもしくはスマートフォンにZoomアプリをダウンロードして、正常に稼働することをご確認ください。

お問い合わせ先は各キャンパスに 学生支援センター 障がい学生支援室 まで
 京田辺校地 (昼心館2F) E-mail: do-core-st@mail.doshisha.ac.jp
 今出川校地 (東館1F) E-mail: do-core-st@mail.doshisha.ac.jp



ランチタイム手話 教職員も申し込みます！

手話は目で読む言葉です。みんなと一緒に楽しく会話してみませんか？興味のある方はどなたでも申し込みください。

「秋学期ランチタイム手話」を対面とオンラインで同時開催します。
 日時：11月11日(水)、11月25日(水)、12月9日(水)、1月13日(水) 12:30-13:00
 ※いずれか1日の参加でも申し込みできます。

場所：京田辺校地TC1-132 / 今出川校地良心館301教室 / Zoom
 ※対面参加の方は道徳教室へお越しください。
 ※Zoomから参加ご希望の方は、下記「ランチタイム手話参加申込みフォーム」から開催前日の3時までにお申し込みください。当日の開始までに申込者へZoomのURLをお送りします。

お問い合わせ先は各キャンパスに 学生支援センター 障がい学生支援室 まで
 京田辺校地 (昼心館2F) E-mail: do-core-st@mail.doshisha.ac.jp
 今出川校地 (東館1F) E-mail: do-core-st@mail.doshisha.ac.jp

【ランチタイム手話に参加してくれた学生の声をご紹介します】

岡田 紗季（生命医科学部・1年次生）

あなたが最近、挑戦したことは何ですか？
 こんにちは。いきなり質問から始まりました。さて、何かあるでしょうか？今日は、私のランチタイム手話に参加したお話をしようと思います。あるとき、支援室からお知らせが来て、「30分ばーっと過ごすより、何かした方がいいやろ」と思い、参加してみました。初心者の私にも基本の基本から教えてくださったので嫌になることがなく、新しいタイプの言葉を習っているようで、面白い時間でした。
 最初はZoomで、サークルがある日は教室で参加しました。コロナ禍の影響でお話をする人が限られてしまっていたので、他のサポートスタッフやコーディネーターとお話することができたことも、よかったことのひとつです。
 これを読んでくださった方、ランチタイム手話を機に手話に挑戦してみませんか？

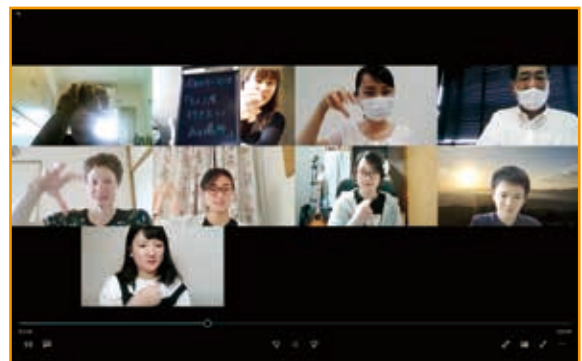
松山 漱亮（理工学部・1年次生）

私が初めてランチタイム手話に参加したきっかけは、春学期が原則オンライン授業となり、下宿先ではなく実家で過ごしていたので、大学に関わる機会が持たたら良いなと思ったことでした。手話を学んでいく中で、個人的に手話の成り立ちは非常に興味深いく感じました。
 秋学期は対面とZoomの両方に参加しましたが、対面では参加者の顔を直接見て話すことで話題が広がるどころが長所だと感じました。Zoomでは場所に縛られずに参加できることや、参加者の顔をスクリーン1枚で視認することで全体の反応が捉えやすいことが長所だと感じました。来学期もランチタイム手話に参加できることを心待ちにしています。

【ランチタイム手話に参加してくれた学生の声をご紹介します】

吉本 ちひろ（法学部・1年次生）

以前から、手話に興味はありましたが、同時に難しそうだなとも思い、実際に手話をする機会を持たずにいました。そんな私も、支援室が主催するイベントなら楽しんで手話を始められると思い、参加を決めました。実際に手話をしてみると、一つ一つの手話表現に意味があり、知るたびに世界が広がるようで楽しいと感じました。手話を通して、多くの参加者とコミュニケーションをとれたことも嬉しく思います。
 今回はオンラインで参加しました。教室での参加と違い、質問したい時に近くの人に聞くことができない、などの難しさもありますが、画面の中で参加者一人ひとりのお顔がはっきりと見えるので、表情も大切な手話にとってはよいツールだと感じています。



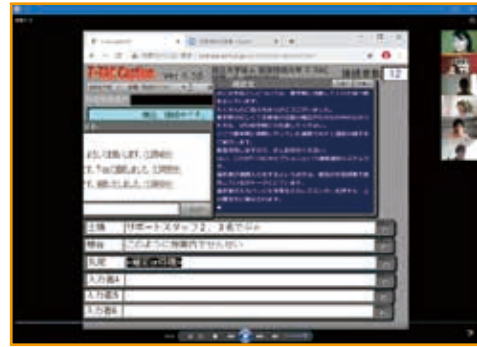
●春学期末利用学生懇談会

開催日・場所：2020年8月26日（水）・28日（金）
Zoom開催
参加者数：延べ38名（教職員含む）



●春学期末全体懇談会

開催日・場所：2020年9月1日（火）Zoom開催
参加者数：59名（教職員含む）



オンライン授業で良かった点

- ・支援を受けている講義にコーディネーターさんも参加いただき、講義後にじっくりと時間をかけて振り返りをして良かった点や改善点を共有できた。
- ・振り返りの中で自分のことを深く知ってもらうことができ、遠隔通訳においてより良い支援方法を探し出して自分に合った通訳方法を見つけられた。

オンライン授業で大変だった点

- ・話者の口元から読み取りが難しかった。
- ・自宅のネットワーク回線の影響で、遠隔通訳において文字が表示されなかったり遅れて表示されるラグが頻発し、空白の時間が生じた。
- ・高校時代使っていたFMマイクの支援は対面時のみに使用可能だったので非対面時のより良い支援方法を模索すること。

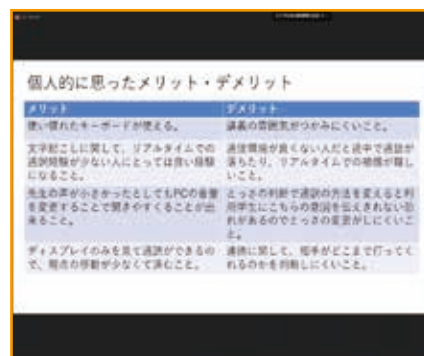
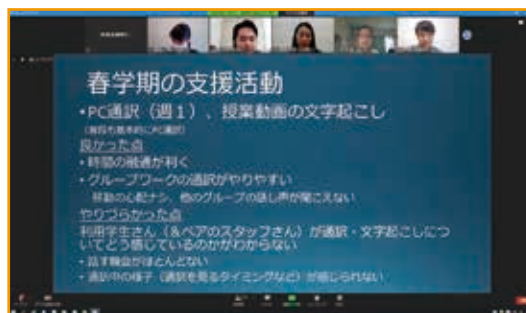
新型コロナウイルス感染症の影響により春学期末全体懇談会もオンラインでの開催となりました。

今回は「知る・考える遠隔支援 ～オンライン授業における支援活動について～」をテーマに、春学期のサポートや支援室の取り組みを紹介したあと、参加学生約50名に「この春学期をどのように過ごしてきたのか、どのような思い・気持ちの変化があったのか」を発表してもらいました。紙に手書きで文字やイラストを書いたり、PPTを画面共有したりと、それぞれがオンラインならではの情報保障を工夫しながら、思いを共有する時間になりました。

春学期は大学へ来て学生同士で交流をしたり、行事で親睦を深めることが難しい環境ではありましたが、この懇談会がお互いの理解を深めてもらえるきっかけになったものと考えています。

閉会の挨拶では、阪田真己子支援室長からDEI（Diversity, Equity, Inclusion）に関するお話があり、参加した学生には「同志社の構成員の一人として、私に何ができるかということを考え、ダイバーシティを構成する当事者の一人として同志社を支えていってほしい」という思いが伝えられました。

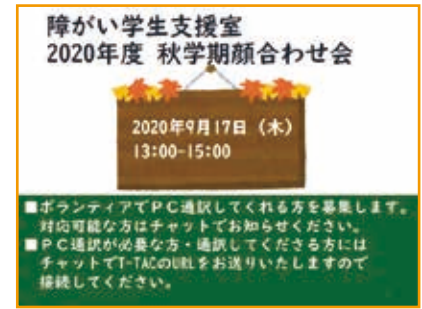
参加学生たちも対面授業が再開し入構が可能となる秋学期への期待をあらたにし、懇談会は盛会のうちに終了しました。



●秋学期顔合わせ会

開催日・場所：2020年9月17日（木） Zoom 開催

参加者数：28名



●秋学期フォローアップ勉強会

開催期間・場所：2020年11月9日（月）～2021年1月8日（金） Zoom 開催

参加者数：17名（延べ）



2020年度 秋学期フォローアップ勉強会は、今出川校地の教室と Zoom のハイブリッド開催となりました。

新型コロナウイルスの感染症拡大予防のため春学期は開催できませんでしたが、秋学期は多くのサポートスタッフが参加してくれました。

■パソコン通訳（PC 通訳）勉強会の様子

PC 通訳の基本を勉強し、遠隔文字通訳システムの captiOnline（キャプションライン）の基本操作と連係入力の練習をしました。また、タイピング練習ソフト MikaType（ミカタイプ）を使用し、タイピングの速度を上げる方法などについても話がありました。



【講師を担当してくれた学生の声をご紹介します】

サポートスタッフ：谷口 真由（法学部・4年次生）

今回、私は captiOnline という新しいソフトを用いた PC 通訳の勉強会の講師を担当しました。自分自身も使い慣れないソフトで、手探りの状態でのレクチャーとなりましたが、一緒に講師を務めてくれた後輩と協力し合って進めていくことができました。また、今回は初めて対面とオンラインのどちらでも参加できる勉強会にしました。オンラインでも実施したことで、対面の良さは残しつつも、今までの対面のみ勉強会では難しかった離れた校地からの参加が叶い、通学、時間割の都合で参加が難しかったサポートスタッフもアクセスしやすくなったため、より多くの人に参加してもらえるとというメリットもありました。最初は慣れないことで多少は戸惑いもありましたが、回数を重ねることでうまく対応できるようになっていったので、従来のやり方にとらわれず、いいものをどんどん取り入れて、より良い勉強会作りを後輩に託したいです。

【勉強会に参加してくれた学生の声をご紹介します】

サポートスタッフ：梶川 桃香（心理学部・2年次生）

私が PC 通訳の勉強会に参加した理由は、多くの授業や学内行事が中止・延期していく状況下で、何かひとつでも障がい学生支援室の活動に参加したいと思ったからです。

勉強会は Zoom を駆使して丁寧に進めてくださり、短時間で captiOnline という PC 通訳ソフトの使い方をマスターすることができました。文字での会話のやりとりや、実践練習後にはブレイクタイムやフィードバックの時間を設けてくださったので、初対面のサポートスタッフとも打ち解けた雰囲気を楽しめました。この captiOnline という一見ハードルが高そうに感じてしまうソフトも、実際に使用してみるとすごくシンプルで使いやすいことが分かりました。

この勉強会に参加したことで、自分が活動できる領域が少し増えたのではないかと思います。

サポートスタッフ：織田 遼子（文学部・1年次生）

以前からサポートスタッフの先輩方の話を聞く機会が多く、PC 通訳について関心をもっていたところ、勉強会のお知らせがあり、コーディネーターの後押しもあって参加を決めました。

captiOnline の使用は初めてでしたが、二人一組で通訳する場合、ペアがどこまで打っているかを PC 画面で見ながら入力できるので、初心者でも入力の分担がわかりやすく、使いやすいと思いました。様々な機能があり、よく授業で出てくる言葉を事前に登録しておけば作業を省略できるのですが、こうした機能を使いこなせるようになるにはさらに練習が必要だと感じました。今回は練習のペアが PC 通訳に慣れた先輩だったのでたくさんフォローしてもらい、スムーズにタイピングができました。

実際の授業で、PC 通訳ができるようになるまでの道のりはまだ長そうですが、このような勉強会の機会があれば、今後も積極的に参加して、自信をもって実際の通訳活動ができるように準備していきたいと思っています。

■ノートテイク・代筆勉強会の様子

ノートテイク・代筆の基本を勉強し、書きまとめる練習をしました。また、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため新たに導入した書画カメラを使用して、実際のノートテイクの様子を見てもらいました。

【講師を担当してくれた学生の声をご紹介します】

サポートスタッフ：山口 理沙（グローバル地域文化学部・4年次生）

私は、秋学期の対面授業のサポートとしてノートテイクの活動をしました。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、これまでと違って席は利用学生の隣ではなく、間を空けて座ったり、サポートスタッフが前後に座り15分ごとに立ち上がって交代するなどして細心の注意を払いました。また離れて座るため、利用学生から文字が見えにくいのではないかと思います、用紙をできるだけ利用学生に近づけるなどの、工夫を取り込みました。

勉強会では講師を担当しましたが、書画カメラをPCにつないで他のサポートスタッフのノートテイクの様子を見たり、コーディネーターの話の聞いたりすることで、自分自身も大変勉強になりました。勉強会を通して気付いたことを活かし、より多くの情報を伝えられるノートテイク者になりたいです。

【勉強会に参加してくれた学生の声をご紹介します】

サポートスタッフ：小内 幸子（社会学部・3年次生）

私は、昨年末にサポートスタッフとして登録をしました。しかし、まだ実際に活動する機会はなかったため、サポート内容についての学びを深めたいと考え、勉強会に参加しました。

実際にこの勉強会で初めてノートテイクを体験しました。私は耳が聞こえない感覚はわからないため、どこまで詳しく書けば良いのか、何を重視すれば良いのか、戸惑いながらの挑戦でした。

実際に参加してみると、単純に授業の内容をメモするのではなく、迅速に必要なことを漏れなく書くためのポイントや、利用学生にわかりやすく伝える工夫など、細かなチェックポイントがあることに驚きました。しかし、ただルール通りにやればよいというわけでもなく、何よりも利用学生一人一人のニーズを聞くことが重要だという気づきもあり、良い経験となりました。



●秋学期中間懇談会

予定日・場所：11月 中止

●秋学期末全体懇談会

開催日・場所：2021年2月26日（金） Zoom 開催

参加者数：51名

秋学期の活動や支援を振り返り、次年度の障がい学生支援に活かすことを目的に開催しました。

DOSHISHA UNIVERSITY

**2020年度
秋学期末全体懇談会**

共有しよう。これまでのこと、これからのこと。
～コロナ禍前後のサポートと今後の展望～

2021年2月26日（金）
13:30～16:00

●秋学期末利用学生懇談会

開催日・場所：2021年2月18日（木） Zoom 開催

参加者数：18名（教職員含む）



●第16回Challengedキャンプ

開催日・場所：2020年12月23日（水）・24日（木） Zoom 開催
参加者数：32名（教職員含む）



第16回 Challenged キャンプは、例年と異なる形で開催されました。

これまでのキャンプは、夏休みを利用した2泊3日のスケジュールが慣例でしたが、残念ながらコロナの状況がますます悪化する中で夏休みの開催を断念。それでも、学生からの強い希望もあり、なんとか開催できないかと検討した結果、今年は冬休みに2日間、オンライン（Zoom）の方法で開催することとなりました。

29名（学生21名、教職員8名）の参加を得た今年のキャンプのサブタイトルは、「教えてよ 君の世界や君のこと きっと何かかわるから」。

2日間をとおして、障がいのある学生（4名）、サポートスタッフ（2名）、一般学生（2名）とお二人の先生に、それぞれ以下のテーマに沿ってお話いただきました。

障がいのある学生には、当事者として思うことや、障がいがあったからこそ身についた考え方やスキルなどのご自身の経験知を、サポートスタッフにはコロナ禍でのスタッフ経験などをとおしての気づきを、一般学生と先生には DEI（Diversity, Equity, Inclusion）に沿った内容をお話いただき、参加者からの質問からさらに考察を広げるクロストークの時間を経て、それぞれの考えを深める時間となりました。

残念ながら、今年は Challenged キャンプのひとつのセールスポイントである「寝食を共にしてみんなと一緒に考える」ことはできませんでしたが、「みんなと一緒に考える」伝統はしっかりと受け継がれたことを実感しました。

【発表してくれた障がい学生のご紹介します】

山田 翔登（法学部・3年次生）

今回は登壇者として参加し、視覚障がいがあったからこそ気づいたこと、してもらおうと嬉しいことや障がいの定義を中心に発表しました。

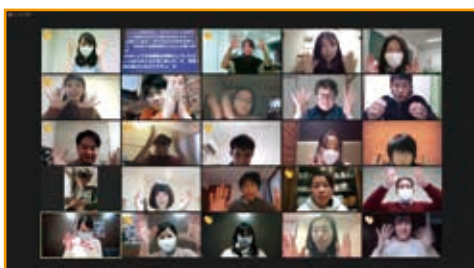
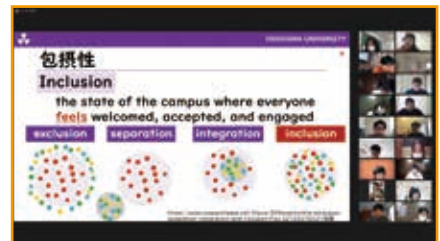
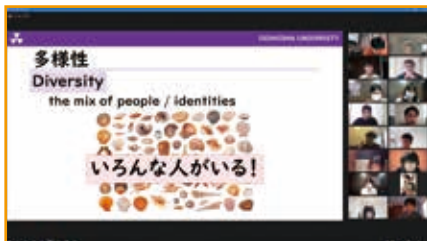
「視覚障がいがあったからこそ気づいたこと」では、情報収集や自分が希望するサポートを言語化することの重要性などを、これまでの経験を踏まえてお話ししました。「してもらおうと嬉しいこと」については、友人が方法を一緒に模索してくれたエピソードを元に、障がいがある理由でできないことに目を向けるのではなく、どのように工夫したらできるのかを考えることの必要性についてお伝えしました。また、当事者として障がいを定義することで、自分の長所を伸ばせる世界であるという実感も共有しました。

キャンプの参加者との対話をとおして、障がいについてのそれぞれのアイデアや向き合い方を学び、前向きな気持ちで生活を送ることの大切さを再認識できました。

大田 竜聖（政策学部・1年次生）

このキャンプでは、障がい当事者として発表の機会をいただきました。参加者とのクロストークの場面では、それぞれが考える「障がい」という言葉の意味について意見を交わしました。自分にはなかった新たな視点や捉え方があり、改めて考えさせられることがあった一方、これまでの当事者としての経験から、「確かにそうだよな」と納得することはいくつかありました。また、「授業を担当する先生方にも障がい学生のサポートについて、もっと理解を深めてもらえる機会を作りたい」といった積極的な提案も出しました。

このキャンプを通じて、新しい発見があり、考え方の幅が広がったと同時に、障がい当事者である私の考えを、参加者や教職員の方々と共有することができるなど、有意義な時間を過ごすことができました。



●ガイドヘルプおよび車椅子介助の講習会

予定日・場所：2021年2月
今出川校地寒梅館ハーディーホール 中止

●障がい学生対象「就職ガイダンス＆相談会」

活動日・場所：2020年12月10日（木） Zoom 開催
協カスタッフ：1名

●ハリス理化学館同志社ギャラリー第22回企画展 「『支え合う志』をつないで-障がい学生支援制度発足20周年-」

会期：2021年3月19日（金）～5月23日（日）
会場：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室（今出川キャンパス）

ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室において、第22回企画展「『支え合う志』をつないで-障がい学生支援制度発足20周年-」（2021年3月19日～5月23日）が開催されました。本展は、同志社大学の障がい学生支援制度発足20周年を契機に企画され、本来であれば2020年3月より開催されるはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い緊急事態宣言が発令され、会期の延期を余儀なくされました。その後、約1年の開催延期を決定し、新たに策定されたギャラリー独自の感染予防対策ガイドラインにもとづいて実施することを条件に、コロナ禍においても企画展実施の目的が立ち、無事に開催する運びとなりました。

本展は、障がい学生支援制度の前史を紐解き、制度の発足とその発展を概観する展示です。全盲で下肢が不自由であった山本覚馬が同志社の創立に深くかかわりながら、障がいのある学生を受け入れ始めたのは1948年の新制大学発足以降であり、さらにそうした学生達の修学支援を始めたのは学生達でした。学生運動が隆盛な時期に学生からの要求によって、大学は障がいのある学生へのサポートを徐々に整え、制度として運用され始めたのが2000年です。

2000年より始まった支援制度には2つの目的があります。1つは、本学に在学する障がいのある学生が他の学生と等しい条件で学ぶことができるように修学環境を整えることです。もう1つは、支援される学生と支援する学生の自律的な成長を促すことです。かつて学生主導で始まった支援ですが、現在では法の下で「教育を受ける権利」を保障する修学支援として発展してきたことを初めて資料に基づき公開したのが本展です。



ハリス理化学館同志社ギャラリー
第22回同志社ギャラリー企画展

「支え合う志」をつないで

— 障がい学生支援制度 —
発足20周年

会期
2021年
3/19(金)～5/23(日)

開催時間 10:00～17:00
(入館は16:30まで)

休館日 月曜日、祝日
ただし3/20は開館

会場
ハリス理化学館
同志社ギャラリー
2階 企画展示室
(同志社大学今出川キャンパス)

入場無料

パブリック
[パブリック] 展示
展示関係

山本覚馬像

**高学務タイプライター
(Perkins Braille)**

同志社大学今出川キャンパス

展示説明
日程 2021年3月19日(金)～5月23日(日)
 展示期間中、同志社史資料センターYouTubeチャンネルより担当者による展示説明動画を配信
同志社史資料センター YouTubeチャンネル

同志社大学障がい学生支援制度発足20周年記念シンポジウム
日 時 2021年8月7日(土) 12:30～15:30(受付11:45から)
会 場 同志社大学東区キャンパス寒梅館地下ハーディーホールもしくはオンデマンド配信
テーマ IDO, CAREのよみとこからー同志社大学障がい学生支援制度発足20周年を記念してー
※詳細は同志社大学障がい学生支援センターホームページをご覧ください。

※ 須田辺キャンパスでも資料を展示します。
日 時 2021年7月1日(木)～10月31日(日)
場 所 ツーネット記念図書室2階展示室
※展示はパブリック展示室と異なり、入館料は無料ですが、事前の予約が必要となります。

主催 同志社大学学生支援機構学生支援センター 障がい学生支援室・同志社大学同志社史資料センター
※障がい学生支援室は2021年4月に開室予定
協力 全国高等専門学校学生支援協会(AHEAD JAPAN)、大学コンソーシアム京都、日本学生支援機構(JASSO)、日本財団、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(JEPNet/Japan)

●複合領域科目「支援する/される関係の中でバリアを考える-共に生きる社会をめざして-」

開講期間・場所：2020年9月28日（月）～2021年1月25日（月） 月曜6講時

今出川校地良心館304教室またはZoomのハイブリッド型授業

協カスタッフ：延べ30名（PC通訳）

2020年度の複合領域科目「ダイバーシティ社会における「支え合い」を考える」は、次の3点を到達目標（Goals,Aims）として、5人の担当者のリレー形式により秋学期今出川校地で開講されました。

①障がい者（学生）を取り巻く状況・実情を踏まえつつ、ダイバーシティの視点から「支え合い」の意味と課題を理解できるようにする。

②「支え合い」の手段としての「コミュニケーション」に着目し、障がい体験によって支援する人/される人双方の立場から、「支援」のあり方について多角的に考察できるようにする。

③主体的な学びを起点として、多様な他者・社会に対して包括的に課題解決に向かう姿勢を持つことができるようになる。今年度の授業には大きく3つの特徴がありました。

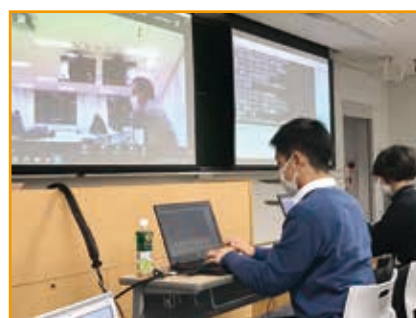
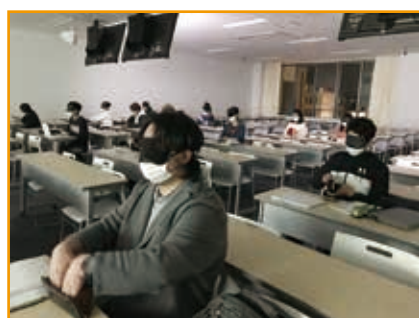
第一は、昨年までの夏休み期間中の集中講義（1日3コマ5日間連続）から、秋学期通期（月曜6講時）に変更されたことです。これにともない、例年は2割程度であった本学の学生の受講比率が8割を占めたように、これまで受講したくても日程上の理由で受講できなかった本学の学生を救済するという目的を達成することができました。

次いで、ご多分に漏れずコロナ禍の影響を受けて対面、オンライン併用のハイブリッド方式での開講となったことです。学生、教員の双方に苦労をおかけする面もありましたが、オンラインでの開講を担保したことは、他大学や京田辺校地の受講生の移動の負担や感染リスクの軽減につながりました。また毎回20名近くのにぼった教室での受講生も、各自が感染対策を取っての受講で、無事にクロージングできたのは、受講生の高い意識によるものであったことに感謝します。

さらには、文字通訳を必要とするユーザーが、受講生と教員の双方に在ることから、すべての授業で字幕の掲示（PC通訳）が必要となり、これを初めて見た受講生の支援技術への関心を喚起したことです。特に文学部の留学生からは、「母国にはこんな制度も技術もない」と感嘆と称賛の声をいただいたことを付言します。

近年、経営学のジャンルで関心を集めている「心理的安全性」という概念を持ち出すまでもなく、例年以上に安心できる安全な環境が求められることから、教員や受講生だけではなく、PC通訳のサポートスタッフを交えて工夫した授業が進められました。晩秋から厳冬期にかけての夜の冷気の中、換気のために出入口や窓を開放せざるを得ない環境下でありながら、受講生の何かをつかみ取ろうとする熱気を感じるものともなりました。

授業最終日のレポート試験では、5人の講師陣のリレー形式での授業の特徴を表すかのように、バラエティに富んだテーマで、レベルの高い論考が寄せられました。「社会に出る前に、この授業をとって本当に良かった」という法学部4年次生の感想に、冒頭で記した目的、すなわちこの授業がこれまで大切にしてきたマインドセットともいえるものが、今年度の受講生にも届いたことが確認でき、教員一同は「来年度にはさらなるよい授業の提供を」との思いを新たにしました。



●聴覚障害学生支援実践事例コンテスト2020特別編-聴覚障害学生支援の思いを伝えるコンテスト-において、生命医科学部 浅野杏奈さんが「最優秀作品賞」を受賞



日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(以下、PEPNet-Japan)主催の本年度のシンポジウム(オンライン開催)における学生参加プログラム「聴覚障害学生支援実践事例コンテスト 2020 特別編 -聴覚障害学生支援の思いを伝えるコンテスト-」の川柳部門において、生命医科学部医工学科3年次生の浅野杏奈さんが最優秀作品賞を受賞しました。

コンテスト応募作品は10月27日(火)~11月2日(月)の期間中、PEPNet-Japan公式サイトに掲載され、Twitterで「いいね」を獲得した上位5作品が最終審査に進み、全国各地の大学教職員で構成されたコンテスト審査員による最終審査を経て受賞が決定したものです。

■受賞作品

表情があれば良いのに 活字にも(ペンネーム 笑形文字)

■浅野杏奈さんの受賞コメント

今回のコンテストに応募した理由は、川柳や俳句、短歌が好きだからでした。わずか十七音程度の言葉が、人に影響を与え、何かを考えさせるということに魅力を感じます。

これまでの支援活動で、最もじれったく、難しく感じたのは、聴覚情報を活字に変換することでした。2020年春学期はオンライン授業が主流となり、授業音声の文字起こしをすることになりました。ある時、先生がとても笑って発言されていたので「発言内容(笑)」と書きました。提出後、内容や体裁のチェックを終えた完成データを見ると「(笑)」が削除されていました。優先して伝えるべきことは授業の内容であり、笑いにも様々な大きさや種類があることから、このケースでは「(笑)」を削除し文字情報を整理されたとのことでしたが、この出来事が今回の川柳を作るきっかけになりました。活字だけでは言葉の抑揚や表情を伝えきることはできず、それらを伝えるためには更なる情報が必要です。あらためて情報保障の難しさを痛感しました。

私は文字情報を伝えることだけが支援ではないと考えています。そして支援は、コミュニケーションの架け橋となることだと考えています。その支援がより温もりのあるものになるように、これからも活動していきたいです。



同志社大学障がい学生支援室について

● 2020年度障がい学生支援制度スタッフ登録・活動の状況

週当たりの派遣コマ数（2020年度春）（単位：コマ）

活動内容	両校地
PC 通訳	3
テキスト校正	7 (7月6日～7月10日の週を平均値とする)
代理タイピング	2
合計	12

※PC通訳は、今学期はオンラインで対応（障がい学生1名に対してサポートスタッフ1名～3名で支援）

※ノートテイク・代筆・ポイントテイク・対面朗読・字幕付け・点訳は依頼なし

※すべてオンライン授業のため、車いす・トイレ・ストレッチ・移動介助・休み時間の支援はなし

※突発的な授業支援は除く

週当たりの派遣コマ数（2020年度秋）
（PC通訳・代理タイピング）（単位：コマ）

活動内容	両校地
PC 通訳	15 (遠隔5 対面10)
代理タイピング	6
合計	21

スタッフ登録状況（単位：人）

2020年度	スタッフ	学生	一般	合計
春学期 (8月現在)	登録者数	127	12	139
	活動者数(4月～8月)	30	2	32
秋学期 (2月現在)	登録者数	115	11	126
	活動者数(9月～2月)	65	3	68

(授業補助・移動介助)（単位：コマ）

活動内容	今出川	京田辺	合計
授業補助(代筆、NT、ポイントテイク含む)	16	2	18
移動介助(今学期車いす・トイレ・ストレッチのサポート無し)	10	0	10
合計	26	2	28

※パソコン通訳・ノートテイクは、障がい学生1名に対してサポートスタッフ1名～3名で支援

※代筆は、障がい学生1名に対してサポートスタッフ1名で支援

※突発的な授業支援は除く

1. 本学における障がい学生支援について

同志社大学の障がい者支援は1949年に遡る。入学試験において、日本の大学で初めて点字受験の対応を開始した。1975年、点訳・墨訳担当者を配置し、試験問題の点訳を開始。1982年には学長の諮問機関として「障害者問題委員会」を設置し、これを契機に今出川校地内建物入口スロープや自動昇降機を設置、1984年からは語学テキストの点訳業務を開始した。

1986年、京田辺校地の開校にあたり、キャンパスの基本設計から全面的なバリアフリー化をはかり、図書館内には点字室や対面朗読室を設けた。

2000年3月、「障害者問題委員会」からの学長宛て答申を契機として同年5月「障がい学生支援制度」がスタートし、翌2001年に同委員会からの再答申により、講義補助から講義保障へと一段と踏み込んだサポートが開始された。この際、一部の支援で、サポートスタッフの活動を有償化した。

2002年には「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更し、学内の障がい学生の総合的相談窓口を、学生部（現在の学生支援センター障がい学生支援室）に一本化、2004年、今出川・京田辺の両キャンパスに常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置し、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）との連携協力を開始した。

2006年には日本学生支援機構（JASSO）の「障がい学生就学支援ネットワーク事業」の拠点校として連携協力を開始し、2007年にはアシスタントスタッフ（有償）とボランティ

アスタッフ（無償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援を有償化した。

2008年、「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編するとともに、学生支援センター内に「障がい学生支援室」を設置した。

2009年秋より、事務組織上、障がい学生支援室を京田辺校地学生支援課に一元化した。

2014年秋に発足した全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD JAPAN）に発起人校として参加した。

2016年4月の「障害を理由とする差別解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」施行に伴い、2018年4月に障がい学生支援制度の一部見直しを行い、修学支援に関する申請から合理的配慮の決定手続きまでの過程を明確化するとともに、支援内容については学生とその所属学部（大学）が合意をとる形式とした。

2. 障がい学生支援室（2021年3月31日現在）

専属の障がい学生支援コーディネーターが常駐しており、障がいのある学生に対して学生サポートスタッフの協力を得て、授業保障に関わるサポートを行っている（授業保障とは、障がいのある学生が希望するすべての授業について、一般学生と同じレベルで受講できるよう保障することである）。

スタッフ

マネジメント（教員1名、職員2名）

コーディネーター（5名 内1名は手話通訳者）

事務補佐員（7名）

同志社大学障がい学生支援室について

障がい学生支援の沿革

- 1937年 ヘレン・ケラー女史、同志社女子部で講演
- 1949年 大学入学試験において点字受験対応を開始（日本の大学では初）
- 1952年 同志社大学盲学生友の会（盲友会）結成、盲友会による授業支援開始
- 1975年 教務課に非常勤の点訳・墨訳担当者を配置
試験問題の点訳を開始、1984年度より語学テキストの点訳業務開始
- 1982年 大学長の諮問機関として「障害者問題委員会」設置（1982年4月）を契機に、以後順次今出川校地内の建物入口スロープや自動昇降機等を設置
- 1986年4月 京田辺校地設計にあたりバリアフリー化を企図、図書館内に点字室と対面朗読室を開設
- 1991年 視覚障がい者用ワープロ購入と同時に図書館（今出川校地）内に点字室を設置
- 1992年4月 教務課（今出川校地）に常勤の点訳・墨訳担当者を配置
- 2000年5月 障害者問題委員会からの学長宛答申（2000年3月）を契機として「障がい学生支援制度」がスタート（予算管理は教務課）
・障がい学生の把握と相談窓口
・正課授業保障の体系化（教科書点訳は基本的に大学が責任をもつ）
・障がい学生の人的支援制度
(1)「障がい学生支援連絡会」を設置
(2)学生課（京田辺校地）によるボランティア（ノートテイク・パソコン通訳）学生派遣
(3)奨励金制度の導入・懇談会の開催
- 2001年10月 障害者問題委員会からの学長宛答申（2001年8月）を契機として「講義補助」から「講義保障」へ制度の謳いなおし
・講義保障のために、ボランティアスタッフ（主に視覚障がい学生及び肢体不自由学生へ学生生活支援（無償））に加え、アシスタントスタッフ（聴覚障がい学生への講義通訳（有償））制度を導入
- 2002年 予算管理を学生課（京田辺校地）へ移管
「障害者問題委員会」を「ノーマライゼーション委員会」と名称変更
- 2002年1月 学生課（京田辺校地）に常勤の手話通訳担当者を配置
- 2003年 「障害」の「害」について、人を意味するときのみ「障がい」とする旨を決定、採用大学院生に対しては可能な範囲で補助をする「講義補助」という立場を明確化
- 2003年4月 入学式・卒業式に手話通訳を導入
- 2004年4月 両校地に常勤の障がい学生支援コーディネーターを配置
肢体不自由者（電動車イス専用）用トイレ設置
- 2004年5月 学生部再編により学生支援センターへ名称変更
- 2004年10月 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）への連携協力開始
- 2005年3月 両校地の全ての教室棟扉・トイレに点字シールと対応墨字シール貼付
- 2005年5月 JR福知山線脱線事故で受傷した学生に対して「障がい学生特別支援体制」で対応
- 2005年8月 Challenged キャンプ開始
- 2005年9月 学際科目（現・複合領域科目）「学びのバリアフリーを考える - 障がい学生支援 - （聴覚障害への講義保障を通して）」の運営協力を開始
- 2006年10月 日本学生支援機構（JASSO）の「障害学生修学支援ネットワーク事業」に拠点校として連携協力開始
- 2007年4月 ボランティアスタッフ（無償）とアシスタントスタッフ（有償）を統一し、「サポートスタッフ」として全支援有償化
- 2007年10月 障がい学生キャリア支援セミナーをキャリアセンターと協力して開催
- 2008年4月 「ノーマライゼーション委員会」を発展解消し、「学生主任連絡会議」に整備・再編
障がい学生支援窓口を「障がい学生支援室」として再編
- 2008年10月 第4回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2008」において Challenged キャンプの発表で PEPNet-Japan 賞を受賞

2009年4月	学生支援機構を設置し、4つのセンター（学生支援・保健・カウンセリング・キャリア）が連携し、組織的かつ総合的な学生支援体制を構築
2009年11月	「障がい学生支援室」を学生支援センター京田辺校地学生支援課に一元化
2010年11月	第6回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2010」において「心のバリアフリーをめざして」および「Challenged キャンプ」の発表で準 PEPNet-Japan 賞を受賞
2011年1月	PEPNet-Japan のアメリカ視察にコーディネーターが参加
2011年4月	日本学生支援機構（JASSO）「平成22（2010）年度障害学生の教育支援に関する調査研究委託事業」『理工系大学院における聴覚障害学生の支援について』調査報告書発行
2011年5月	PEPNet-Japan 連携協力校として東日本大震災により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2011年9月	障害学生修学支援ブロック別地域連携シンポジウムを日本学生支援機構と共催
2011年10月	PEPNet-Japan 「障害学生支援大学長連絡会議」に開催校として協力
2012年12月	第8回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2012」において「同志社の実り～そだてる・つながる・ひろがる～」の発表で2度目の PEPNet-Japan 賞を受賞
2013年2月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）制定
2013年4月	学生支援センター障がい学生支援室を大学事務機構規程に明記
2013年6月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）制定
2013年12月	PEPNet-Japan が「平成25年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」において「内閣総理大臣表彰」を受賞
2014年4月	コーディネーター1名増員（4名体制） 今出川・京田辺両校地フリーアクセスマップ製作
2014年10月	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD JAPAN）発足 [発起校として参加]
2014年12月	2015年度から「人」を意味するときに加え「人の状態」を表す場合も「障がい」と表記を統一することを決定
2015年2月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）改正
2015年6月	PEPNet-Japan 遠隔情報保障事業モデル校採択
2015年11月	大学生活協同組合におけるインターンシッププログラムを実施
2015年12月	同志社大学障がい学生支援室内規制定
2016年4月	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）施行
2016年6月	PEPNet-Japan 特別プロジェクトとして熊本地震により被災した大学への遠隔情報保障支援を開始
2017年1月	同志社大学障がい学生支援調整委員会に関する申合せ制定
2017年11月	同志社大学障がい学生支援に関する指針（ガイドライン）改正
2018年4月	障がい学生支援制度を一部変更し、合意内容確認書等を導入
2018年11月	聴覚に障がいのあるチーフコーディネーターを配置（京田辺校地）
2019年7月	コーディネーター1名増員（チーフコーディネーター2名、コーディネーター3名体制）
2019年10月	専門的な知識やスキルを有するサポートスタッフの謝礼額を増額
2020年5月	障がい学生支援制度発足20周年
2020年11月	第16回 PEPNet-Japan シンポジウム「聴覚障害学生支援実践事例コンテスト2020 特別編」でサポートスタッフが「最優秀作品賞」を受賞
2021年2月	スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室内規制定
2021年3月	ハリス理化学館同志社ギャラリー第22回同志社ギャラリー企画展 『「支え合う志」をつないで～障がい学生支援制度発足20周年～』（2021年3月19日～5月23日）
2021年4月	改組により「スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室」設置

京田辺校地



今出川校地



入学式の手話通訳とPC通訳について

聴覚に障がいのある学生・ご家族のため、**入学式では手話通訳とPC通訳**を実施しています。また、視覚に障がいのある学生・ご家族のために、ご希望があれば**点字の式次第**を準備いたしますので、3月上旬までに支援室までご連絡ください。



～障がい学生支援に関する申込み・問い合わせ先～

学生支援センター スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室

Office of Student Disability Services
公式HP <https://challenged.doshisha.ac.jp/>

支援室では専属のコーディネーターが常駐しており、障がいのある学生の修学支援を行っています。お気軽にお越しください。

■京田辺校地 成心館1階

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
Tel 0774-65-7411 / Fax 0774-65-7024
E-mail: do-care-stt@mail.doshisha.ac.jp

■今出川校地 室町キャンパス 寒梅館1階

〒602-0023 京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
Tel 075-251-3273 / Fax 075-251-3099
E-mail: do-care-sti@mail.doshisha.ac.jp

■今出川校地 今出川キャンパス 待辰館1階

Tel 075-251-3261 / Fax 075-251-3299

■開室時間 月曜日～金曜日（祝日授業日を含む）9:00～17:00

〔11:30～12:30 閉室 ただし緊急の場合は対応します。〕
開室時間が変更になる場合があります。変更情報はHPに掲載します。〕